

# 医療技術学部

学校推薦型選抜(一般)  
小論文

**問題** 以下の文章を読み、設問（問1、問2）に答えなさい。

受験生を除く日本の学生は、勉強をしない。中国人や韓国人の留学生、同国の教師と話すと、日本の現状はいつも驚かれる。「羨ましいです」とか「（勉強をしないでもいいから）平和ですね」と言われたこともある。－中略－

2017年に国立青少年教育振興機構が行った日米中韓の比較調査によれば、「試験の前にまとめて勉強する」で、日本の高校生は4カ国中最多の69.3%となっている。その一方で、「自分で整理しながら勉強する」「できるだけ自分で考えようとする」「教えられたとおりに勉強する」「参考書をたくさん読む」「勉強したものを実際に応用してみる」「教わったことをほかの方法でもやってみる」という項目群では、米中韓に比べて低いという結果になっているのだ。

批判を覚悟でまとめれば、7割近い高校生は試験前だけ、つまり年間4、5回ある定期テスト前の合計4、5週間しか自学をしていないこととなる。

実際の学習時間についても、平日、学校の宿題をしない者が11.2%と4カ国で最多、1時間以内に終える者が51.1%、宿題以外は勉強をしない者も24.2%と次点のアメリカ（17.7%）を大きく引き離しているのだ。さらに「授業中、積極的に発言する」は3.7%、「予習復習をする」は12.1%と最少であり、「授業中居眠りをする」15.0%は最多となっている。

私は、単なる学習時間の少なさや授業への無関心だけに危機感を覚えているのではない。同調査では、日本の高校生は授業の内容がわからない場合の対処法として「学校の先生に聞く」が44.1%と最少であり（次に少ない中国で55.3%）、2009年調査の51.1%から減少しているのだ。経験的に言えば、実際はもっと少ないように思う。聞くほどの学問的興味はないのだろう。また、聞くに値しない教員が半数以上ということでもあろう。「ネットなどで調べる」が12.5%から35.1%に急増していることがその証明だ。

それでいて、「学校が楽しい」は78.8%と4カ国中トップの数字である。今の学校は、消費者たる生徒から、部活動や行事、恋愛や友人作りの場としてしか捉えられていないとはいき過ぎだろうか。

定期考査という形で、一時期に10科目前後もテストをするということが本当に正しいのか再考すべきではないか。一時期にやることで、力を入れて勉強をする科目の濃淡が激しくなるし、成績と強く連関しているため、生徒はそこに力を入れ過ぎてしまう。

逆に日頃手を抜いていても、テスト前の1週間だけ集中して学習すれば、それなりの成績を修められてしまうという分析もできよう。さらに、テスト前の期間だけ部活動が休みになるため、システムとしてもそこに学習を詰め込むことを暗に示しているケースが多い。短期間での詰め込みをした結果、テストが終わった途端、その内容を忘れてしまったなどとはよく耳にする話だ。

日々学習する者が最も強いし、人生において意味を持つ。医師国家試験までは勉強をするが、それ以降、最先端医療を学ばない医者に自分の身体を預けたいか。人生は学びの連続である。

【出典】林 純次『学校では学力が伸びない本当の理由』／光文社新書

**問1** 著者は、「テスト前の1週間だけ集中して学習すれば、それなりの成績を修められてしまうという分析もできよう。(下線)」と述べている。本学部に入學したと仮定し、定期試験前の1週間の学習で十分だと考えるか。以下の情報をもとに十分か不十分かを示したうえで、定期試験に向けてのあなたの勉強方法について300字以内で述べなさい。

(情報) 本学部での定期試験は1回あたり15科目が実施され、1科目あたりに必要な学習時間は20時間であり、1日あたりの平均学習時間(土日含む)は5時間が必要である。

**問2** 著者は、文中でいくつかの危機感を述べている。これら危機感を受け、高校までの学習を振り返ったうえで、あなたは大学での日常的な学習にどのように臨んでいこうと考えるか。あなたの考えを900字以内で述べなさい。